

令和3年度

すくすくウォッチ(大阪府小学生学力テスト)

柏原市における結果の概要について

柏原市教育委員会

# 【すくすくウォッチ実施の概要】

## 1. 目的

子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実に身につける。

## 2. 実施内容・実施日

《実施内容》

5年生 国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート□

6年生 わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート

《実施日》

令和3年5月27日(木) ※全国学力・学習状況調査と同日

## 3. 各教科・わくわく問題(教科横断型問題)及びアンケートについて

《各教科について》

【国語】・言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題

・文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題

【算数】・関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題

【理科】・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題

《わくわく問題(教科横断型問題)について》 ※5・6年生ともに同じ問題

・教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題

・文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等の様々な資料を題材とし、問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

《アンケートについて》

・非認知能力である「未来に向かう力」(「目標に向かって頑張る力」「人と関わる力」「気持ちをコントロールする力」と「好奇心」の一人ひとりの状況がわかる様々な問い方に基づく項目

・学級や授業等に関する意識等を問う項目

※調査問題については以下の大阪府教育庁のホームページ内に掲載されています

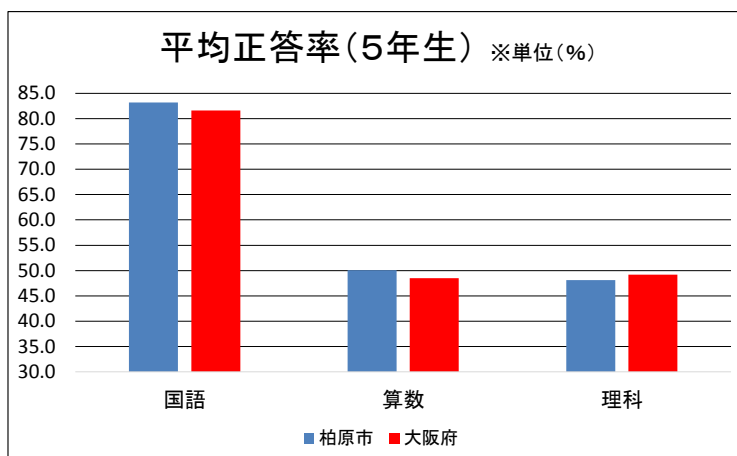
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/index.html>

## 令和3年度すくすくウォッチ結果

### 教科 5年生

平均正答率			
	柏原市		大阪府
国語	83.2	>	81.6
算数	50.1	>	48.5
理科	48.1	<	49.2

※単位(%)

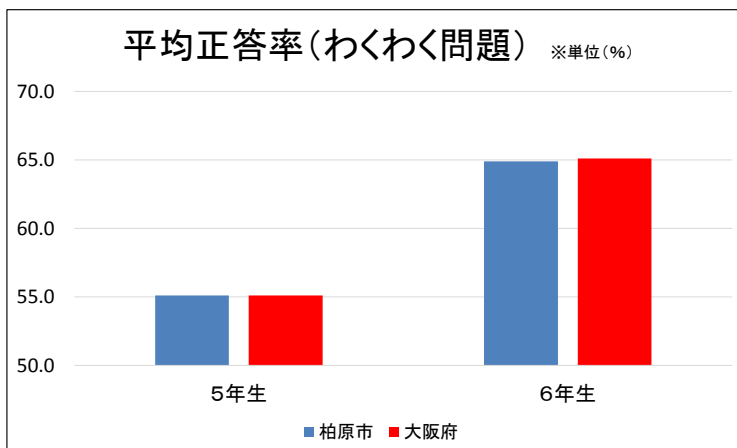


### わくわく問題(5, 6年生)

※5・6年生ともに同じ問題

平均正答率			
	柏原市		大阪府
5年生	55.1	=	55.1
6年生	64.9	<	65.1

※単位(%)

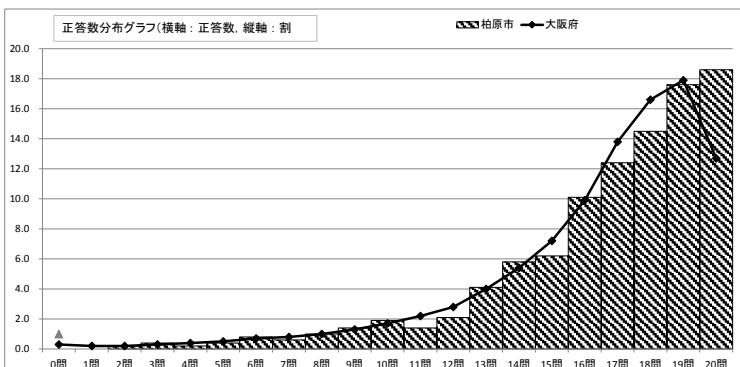


5年生教科は、国語・算数で大阪府平均を上回ったが、理科は大阪府平均を下回る結果となった。

わくわく問題は5年生が大阪府と同値。6年生はやや下回る結果となった。5年生と6年生を比較すると、6年生が約10%上回っており、日常の活動や経験からの学びの積み上げが感じられる結果となった。

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞	
		柏原市	大阪府		
全体		83.2	81.6		
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に關する事項	84.3		82.4
		(2)情報の扱い方に關する事項	83.2		80.8
		(3)我が国の言語文化に關する事項	74.1		75.5
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	—		—
		書くこと	79.8		75.4
評価の観点	知識・技能	話すこと・聞くこと	—		—
		書くこと	79.8		75.4
	思考・判断・表現	読むこと	—		—
		主体的に学習に取り組む態度	—		—
	問題形式	選択	85.5		84.7
短答		80.9	78.5		
記述		—	—		



○全体的にほとんどの区分で大阪府の平均正答率を上回った。  
 ○正答数の分布は概ね大阪府と同様の傾向であり、全問正答の児童の割合が大阪府を5.9%上回っている。  
 ▼領域別にみると、「我が国の言語文化に関する事項」が、大阪府を1.4%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

課題の見られた設問

4(1)

(1) Tôkyô ⇒ [ ]  
 (Tokyo)

正答…とうきょう

5(2)

(2) ぜんは急げ

4 3 2 1  
 人に対してよいことを行おうと、自分にもよいことがおこります。  
 急いでいるときほど、よい考えがうかびます。  
 予定していた計画は急いで行いなさい。  
 よいことだと思ったら、すぐに実行しなさい。

正答…1

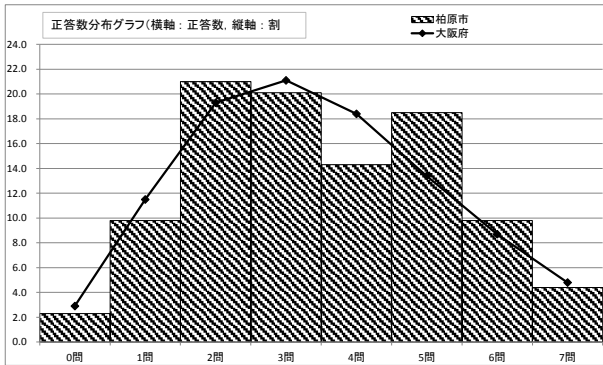
4(1)「日常で使うローマ字を正しく読む」問題である。本市の正答率は74.3%、大阪府の正答率は79.7%であった。(誤答例)「とかい」「とおきょお」等

5(2)「提示されていることわざの意味を正しく理解する」問題である。本市の正答率は55.3%、大阪府の正答率は57.3%であった。(最も多かった誤答は「2」)

どちらも小学校3年及び4年[知識及び技能]において取り扱われる内容である。国語科の授業(単元)のみで学習するだけでなく、日記や普段の関わりの中で「言語に触れる」ことを意識することが、学んだ「知識及び技能」を日常生活でも用いるようになることにつながる。また4(1)のローマ字は表記のちがいを意識しながら外国語活動でも取り扱うなど、教科横断的な視点の工夫が求められる。

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	大阪府	
全体		50.1	48.5	
学習指導要領の領域等	数と計算	45.2	43.5	
	図形	36.5	36.3	
	測定/変化と関係	57.6	56.8	
	データの活用	48.8	43.4	
評価の観点	知識・技能	56.0	55.1	
	思考・判断・表現	35.3	32.0	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	
問題形式	選択	41.4	45.6	
	短答	65.8	61.4	
	記述	35.3	32.0	



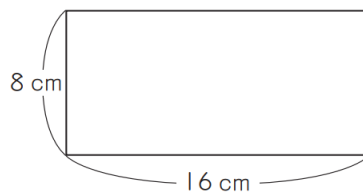
○全体的にほとんどの区分で大阪府の平均正答率を上回った。  
○正答数の分布は概ね大阪府と同様の傾向で。

▼領域別にみると、「図形」が、大阪府をわずかに上回っているものの他の領域に比べて課題がある。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

課題の見られた設問

(1) ころさんは、包そう紙を作るために図1のような長方形の紙を用意しました。この紙の周りの長さは、何cmですか。次の1から4までの中から1つ選びましょう。



- 1 24 cm
- 2 32 cm
- 3 48 cm
- 4 128 cm

正答・・・ 3

「長方形の縦と横の長さから、周りの長さを求める」問題である。本市の正答率は31.3%、大阪府の正答率は36.6%であった。

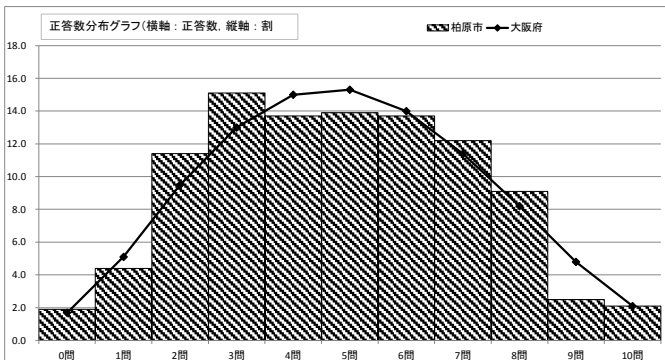
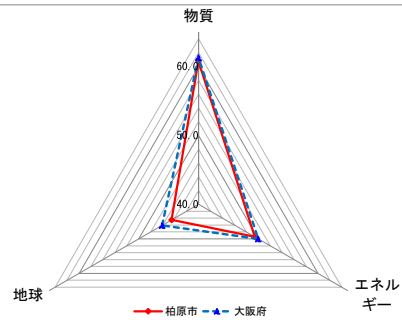
全体の56.6%の児童が「4」と解答しており、「周りの長さ」と「面積」を混同してしまっている。長方形の縦と横の長さが提示されると、面積を求める問題であると思い込んでしまっていたり、長方形の縦と横の長さを掛けることで、周りの長さが求められると誤った理解をしていると考えられる。

設問の中にある一つひとつの用語をていねいに読み取ることが重要である。

問題別調査結果

分類	区分	正答率	
		柏原市	大阪府
	全体	48.1	49.2
学習指導要領の領域等	物質	60.8	61.3
	エネルギー	49.4	50.0
	生命	—	—
	地球	44.5	46.1
評価の観点	知識・技能	53.1	54.2
	思考・判断・表現	40.6	41.7
	主体的に学習に取り組む態度	—	—
問題形式	選択	49.2	51.5
	短答	54.0	52.0
	記述	28.6	27.2

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



○短答式及び記述式問題形式の正答率が大阪府の平均正答率を上回った。

▼全体的に大阪府の平均正答率を下回っており、特に「地球」の領域がマイナス1.6%といちばん開きが大きい。

▼正答数の分布は低位層(正答数2・3問)の割合が大阪府よりも多い。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

課題の見られた設問

正午のかけのり

午後2時のかけのり

(4) 花だんA、B、Cのそれぞれの真ん中あたりで地面の温度をはかるところ、温度の変化は下のグラフのようになりました。

花だんA、B、Cの地面の温度の変化を表すグラフは、上のア～ウのうち、それぞれどれですか。正しい組み合わせを、次の1から4までの中から1つ選びましょう。

- 1 花だんA→ア、花だんB→イ、花だんC→ウ
- 2 花だんA→イ、花だんB→ア、花だんC→ウ
- 3 花だんA→ウ、花だんB→ア、花だんC→イ
- 4 花だんA→ウ、花だんB→イ、花だんC→ア

正答・・・ 3

「各花壇の温度について、校舎と太陽の動きの位置関係から変化を考え、グラフを正しく読み取り、校舎の西側、南側、東側にある花壇の地面の温度変化のグラフの組合せとして適切なものを選ぶ」問題である。本市の正答率は23.7%、大阪府の正答率は27.6%であった。

3年生の実際の授業では、日なたの地面の温度の比較として「午前よりも正午の方が高くなる」ということを学ぶ。例えば、その授業で結果に到達するまでに、課題設定として「一日の温度の変化がどうなっていくか」という問題意識を持たせ、「なぜそうなるのか」を考えさせるような展開が考えられる。ただし、本設問のような「折れ線グラフ」は4年生の学習事項になるので、表を用いて考えるなど留意する必要がある。

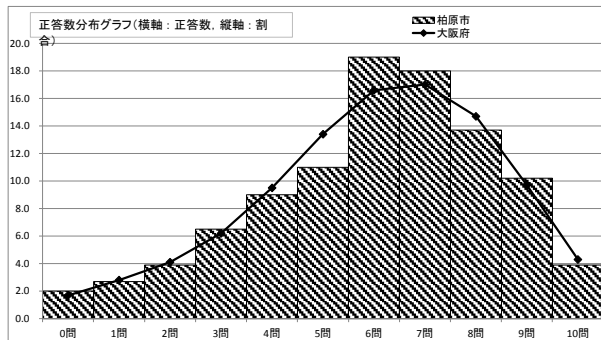
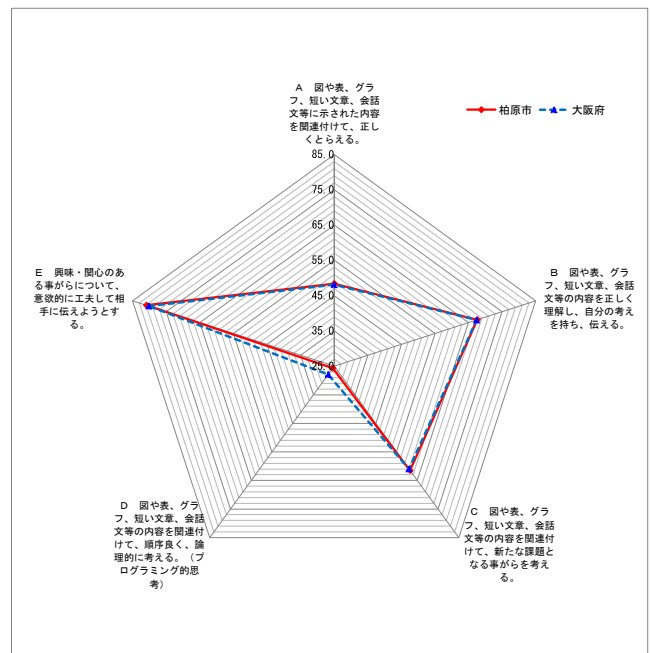
# わくわく問題(5、6年)①

## 問題別調査結果

※数値は5、6年生の平均値になります。

分類	区分	正答率	
		柏原市	大阪府
全体		60.2	60.1
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	48.4	48.1
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。	67.6	67.4
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事から考える。	61.5	61.0
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	25.7	27.9
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	80.9	80.2
問題をとらえる	文章から読み取る	76.9	76.3
	会話から読み取る	57.3	57.0
	図や表から読み取る	53.2	53.4
伝える	資料の情報を整理して伝える	45.0	45.9
	自身で考えたことを伝える	71.4	71.0
	理由や根拠を明確にして伝える	54.2	54.0
問題形式	選択	41.5	41.2
	図表	45.3	46.0
	記述	70.7	70.3

### <観点別の平均正答率の状況>



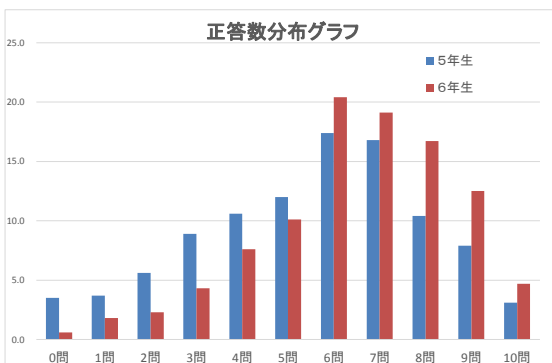
○全体的にほとんどの区分で大阪府の平均正答率をやや上回っている。  
○正答数の分布は概ね大阪府と同様の傾向でる。

▼観点「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える」区分に課題がある。

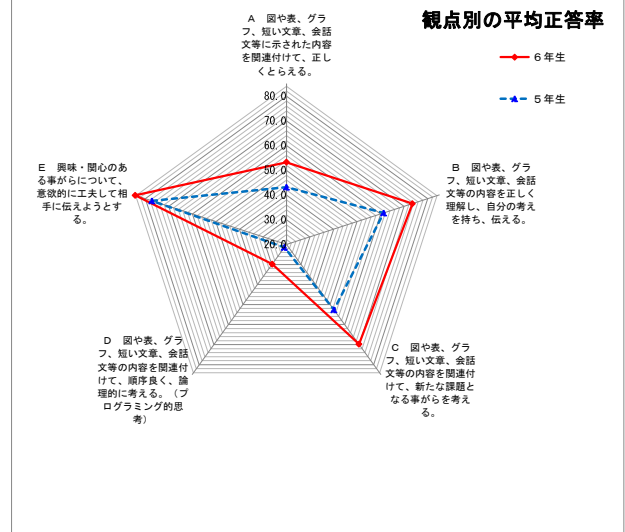
・5、6年生5年生と6年生を比較すると全体的に6年生が上回っている。(課題の傾向は概ね同じである)

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 5、6年生の比較



### 観点別の平均正答率





課題の見られた設問 2

(3) ぶどうのねだんについて農家の人にインタビューする動画(資料4)もありました。資料4、資料5を読んで、あとの問いに答えましょう。

動画(資料4)



けんたさんは、ぶどうのねだんを決めるランク分けについてきょう味を持ち、インターネットで調べたところ、資料5を見つけました。

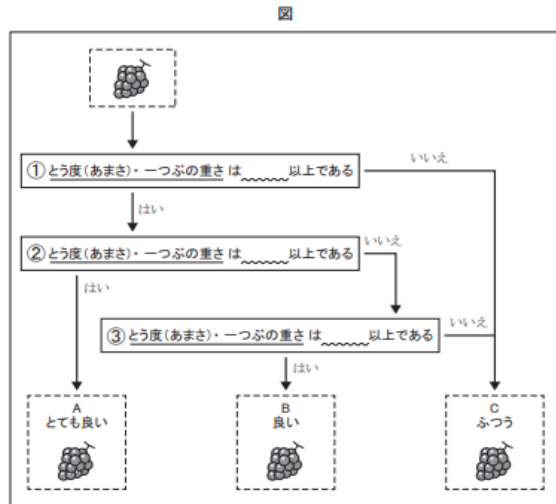
資料5【ぶどうのランク分け】

ランク	A とても良い	B 良い	C ふつう
とう度(あまさ)	17度以上	17度以上	16度以上
一つぶの重さ	14g以上	12g以上	12gより小さい

ただし、とう度(あまさ)と一つぶの重さのランクがらう場合は、低い方のランクになる。  
(例) とう度(あまさ)16度(Cランク) 一つぶの重さ15g(Aランク) Cランク  
低い方になる

※とう度(あまさ)とは食品にふくまれる「とう」の量を表した数で、数が大きいほどあまい。

けんたさんは、自由研究の発表に向けて、資料5をもとにぶどうのランク分けの流れを考え、次の図のように表しました。図の①のらんから③のらんの\_\_\_\_部には「とう度(あまさ)」か「一つぶの重さ」のどちらかを選んで○でかこみ、\_\_\_\_部には、あてはまる数と単位(度またはg)を書き入れて、図を完成させましょう。



正答例

① とう度(あまさ)・一つぶの重さは  
17度 以上である

② とう度(あまさ)・一つぶの重さは  
14g 以上である

③ とう度(あまさ)・一つぶの重さは  
12g 以上である

(参考資料) ※学習指導要領解説「総合的な学習の時間」より一部抜粋

考えるための技法

順序付ける	複数のもの(出来事や事柄)を、何らかの視点や条件に沿って並び替える。
比較する	複数のもの(出来事や事柄)の共通点や相違点を見つける。
分類する	複数のもの(出来事や事柄)について、共通点のあるものを仲間分けする。
関連付ける	複数のもの(出来事や事柄)がどのような関係にあるかを見つける。 あるもの(出来事や事柄)に関係するものを見つけて増やしていく。
多面的に見る・多角的に見る	あるもの(出来事や事柄)について、多様な視点から見てとらえる。
理由づける	対象(出来事や事柄)の理由や原因、根拠を見つけたり予想したりする。
見通す(結果を予想する)	出来事や行動の結果を見通し予想する。
具体化する(個別化する、分解する)	ある法則やルールに当てはまる具体例をあげる。
抽象化する(一般化する、統合する)	複数のもの(出来事や事柄)から、共通する考えや決まりを見出す。
構造化する	主張・説明・ストーリーなど、複数のもの(出来事や事柄)の関係を整理し構造的に示す。

「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える」問題である。本市の正答率は25.7%(5年生21.4%、6年生29.8%)、大阪府の正答率は27.8%(5年生22.2%、6年生33.6%)であった。

教科横断型の問題として設定された「わくわく問題」は、教科横断的な指導を進める際の観点を整理するとともに、思考力を構成する「技法」(考えるための技法)に分類し、それらに基づいて問題が構成されている。本設問がある「大問2」は児童が探究活動を行う際の方法として最も多いであろうインターネットや図書館の資料を題材とし、動画の会話の内容を正しくとらえながら、資料と動画を関連させて理解することを目的とした問題である。

本設問は会話と表から、ぶどうのランク分けを論理的にとらえることができるようにするために、上記技法の中の「順序付ける」、「見通す」、「構造化する」が位置付けられている。これらの技法は「プログラミング的思考」を育む際に重要な観点であり、総合的な学習の時間だけでなく、学校生活における様々な場面で論理的に「考える」力が求められる。

「どのように考えるのか」を具体的に指導・支援する一つに「シンキングツール(思考ツール)」の活用が考えられる。例えば、本設問のように、会話や表から与えられた情報を図を用いて可視化することで、読み取ったことを整理するとともに他者と協働して分析を行うことができる。さらにその媒体としてICTを活用することでより効果的な取組みにつながる。

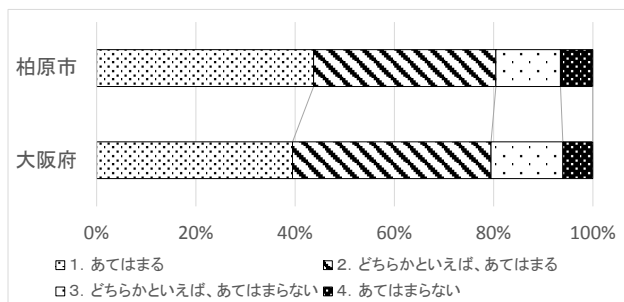
これらを参考に教科横断的な視点で「何を」「どのように」考えさせるのかを日常的に意識して指導することが重要である。



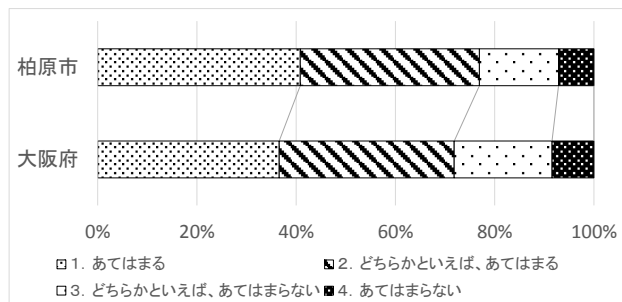
## アンケート結果

※数値は5, 6年生の平均値です。

○その時間のめあてを意識して学習している

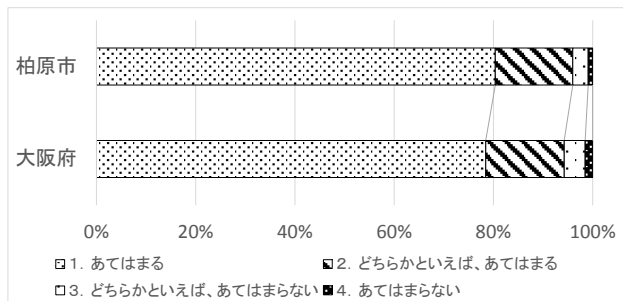


○その時間に学んだことについて、ふり返しをしている

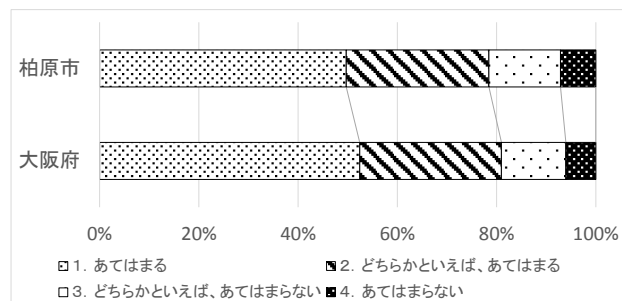


「指導と評価の一体化」をめざした授業づくりにおいて、大事にしていきたい質問項目である。どちらも大阪府に比べて良好な結果となっている。継続して意識していく。

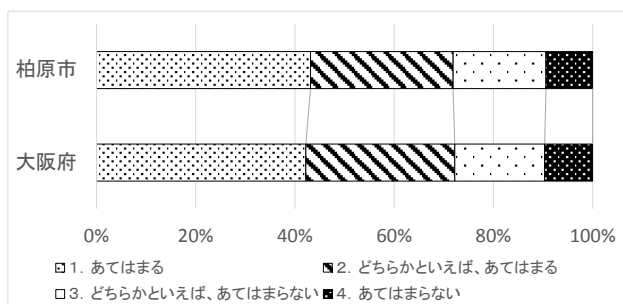
○黒板に書かれたことをノート等に写している



○自分の考えをノート等にも書いている



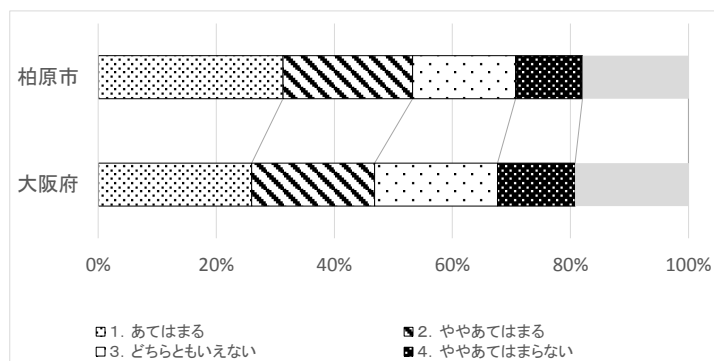
○先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等にも書いている



「ノートのかき方」に関する項目である。

黒板に書かれたことを「写す」ことはほとんどの児童が肯定的（あてはまる・どちらかといえばあてはまる）に回答している。「自分の考え」「大事だと思ったところ」と徐々に肯定的回答が減少している。児童が自分の考えを見つめ、学んだことをノートに書くことを意識する指導が求められる。

○自分でやりたい学習内容を考えて、家で勉強をしている（宿題は除く）



「家庭学習」の内容に関する項目である。大阪府に比べて肯定的回答の割合が高い。児童が主体的に考え、自ら学習に向かう習慣づくりに向け、学校でも授業と家庭学習をつなぐ視点で「自主学習」の力をより高めていく。

## ○教育委員会としての今後の取組み

- ・ICT機器の導入による情報活用能力の向上と並行して、「(複数の)情報を読み取る力」など言語能力の向上をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していく

## ○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・「(複数の)情報を読み取る力」に焦点を当て、活動の充実を図る
- ・授業においてICTを積極的に活用した授業づくりをすすめる
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切に、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みを充実させる

## ○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

### ① 基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きして生活のリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

### ② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

### ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する